

「最上川ふるさと総合公園」は、山形県のほぼ中央・寒河江市の南部に位置し、東に蔵王、西に月山、葉山、朝日連峰を望み、本県の母なる川・最上川と高速道・山形自動車道とに囲まれた28・9%の県の都市公園である。周囲の果樹園と調和を図り園内にもサクランボやリンゴなど果樹を植栽し山形を体感できる公園でもある。県内外から年間30万人以上が訪れる名所になった。一帯を「寒河江ハイウェイオアシス」と呼び、文字通り寒河江市の活力が自噴する空間となった。

山形県は地域課題に総合的に取り組むプロジェクトや地域活性化や交流拡大に結び付ける配慮を行いながら施策に取り組んでいる。「寒河江ハイウェイオアシス」の造成は高速道の利用者に潤いあるスペースを提供する目的で平成12年4月、全国で13番目の事業として始まった。東北横断自動車道酒田線の寒河江サービスエリアと最上川ふるさと総合公園とを一体的に利用できるようにすることを目指した。

「最上川ふるさと総合公園」は平成14年の「第19回全国都市緑化やまがたフェア」(やまがた花咲かフェア'02)までにフラワーガーデン、フルーツガーデン、イベント広場などが供用開始された。その後、平成15年度の「歴史の丘エリア」整備で県の公園としては初めての市民参加型の公園づくりが始まり、平成18年度までに「歴史の丘スポーティーゾーン」と「健康と安らぎのコミュニティーゾーン」が整備された。

「都市緑化フェア」開催後の展開がこのような軌跡をたどることになった背景には、「フェア」で盛り上がった市民意識を一過性のものに終わらせず、市民が愛着を持ち多くの市民が利用する公園にすることを目指す方針があったからである。このため、「フェア」で活躍した緑化ボランティアなど各種団体や一般市民に呼びかけ、“自由で愛着のもてる楽しい公園づくり”をコンセプトに、市民、企業、行政がパートナーシップを組んで課題解決に取り組む、市民参加型のグラウンドワークの手法を公園づくりに導入することになった。

グラウンドワークとは、イギリスを発祥の地としヨーロッパ全域、日本国内に普及している手法で、一口で表現すれば「市民(団体)と企業と行政とがパートナーシップを組み地域の身近な環境(グラウンド)を整備・改善する(ワーク)活動」のことである。寒河江市で、「最上川ふるさと総合公園」づくりに取り組むことができたのは昭和63年に始まった国道112号沿線を市民が区間を分担して花で飾る「フラワーロード整備」、全国から視察者が絶えない「二

の堰親水公園整備」、駅前通りと街路灯を彩るハンギング型フラワーポット、NPO法人グラウンドワーク寒河江によるホテル養殖や沼川の浄化活動、市が公有地を貸与し住民が計画・造成・維持管理を行う住民手づくり町内会公園など、グラウンドワーク手法のノウハウ蓄積があればこそ実現できたのである。「最上川ふるさと総合公園」はその集大成と言っても過言ではない。グラウンドワーク運動を率先して頂いた各機関、企業、市民の諸氏に敬意と感謝の気持ちを表したい。

特に、「花咲かフェアinさがえ」においては、市内

## バリューサイト VALUE SIGHT

# 寒河江市民のパワー 住民参加型の進化す 「最上川ふるさと総

山形自動車道の寒河江サービスエリアに隣接する「最上川ふるさと総合公園」は、一見すると「花咲かフェア」の跡地利用公園のように見える。だが、一步踏み込むと従来の公園の概念を打ち破る公園であることが分かる。お仕着せの公園ではなく住民参加型で造っている国内有数の大規模な都市公園なのだ。

の小学校と中学校と高等学校の児童生徒が制作した「小中高花壇」、市内の各種団体や企業が会場を訪れる来場者を迎えようと制作している「おもてなし花壇」、保育所園児が思い思いに制作した「わんぱく花壇」、また、「町会コンテナ」の展示など、市民、企業、行政が一体となった取り組みを行っている。

公園づくりは、「ビオトープ&レクリエーションゾーン」、「コミュニティーゾーン」、「スポーティーゾーン」、「フリーガーデンゾーン」、「ドッグラン」の5つの区域に分け、市民がワーキンググループを設け、計画づくりから行っている。グループでの話し合いでは、動物に親しめる公園(ミニ牧場)、果樹を残し生かした公園、市民参加の植栽スペースをつくり美しさを競い合う市民花壇、花と緑のフリーマーケット、自然林を残し雑木林の匂いのする公園、

バーベキュー、桜並木で花見、犬の散歩や魚釣りができる公園など、楽しいアイデアが数多く飛び出している。このことは、行政が造り市民に与える公園ではなく、自分たちの欲求や発想を生かせる公園だからこそ積極的になれるのであり、魅力ある公園づくりの本来の姿ではないかと考える。

「ビオトープ&レクリエーションゾーン」は沼地を利用し環境学習を行う自然観察の場、それに軽運動・ピクニックができて親と子が語り合い触れ合える場をイメージしている。「コミュニティゾーン」は近隣住民の安らぎの場で、しかも隣接する市民浴場利



色鮮やかな花咲かフェア会場



スケートボードを楽しむ若者たち

## を結集 る公園 合公園

# 村山



寒河江市 花・緑・せせらぎ推進課主査

佐藤 和好

用と併せた健康増進の場を考えている。「スポーツゾーン」はストリートスポーツ（スケボー・インラインスケート・バイシクルモトクロス）が出来る広場を目指す。また、デイキャンプや芋煮会やバーベキューなどを行うことも視野に入れている。「フリーガーデンゾーン」は市民が自由な発想で造成する場という位置づけで、ここではニーズの多いハーブがもたらす恵みや喜びをガーデナー同士で共有出来る場にするを考えている。「ドッグラン」は市街地では飼い犬を散歩させるのも難しい昨今、飼い主と愛犬が楽しく過ごせて人間社会での犬の暮らし方が学べる場を目指す。

平成17年4月にグラウンド・ゴルフなどのニュースポーツが楽しめる「健康と安らぎのコミュニティゾーン」が完成した。芝の植栽は地域住民や

各種団体の協力で行われ、愛好者から待望の専用コースが誕生したと喜ばれている。平成18年6月には「歴史の丘スポーツゾーン」にスケートボードやインラインスケートなどを行う東北最大級の施設が完成した。地元の若者が管理を行い初心者のためのスケートボードスクールを随時開催するなど若者の集いの場として利用されている。関東地方など県外からの利用者も多く、若者たちの熱意が実って完成した施設である。指定管理者制度が導入されたことで年間を通し県が市内の民間企業に公園の管理を委託している。

さらに、ドッグランやビオトープやコミュニティゾーンからスポーツゾーンまでのフットパス（歩くことを楽しむための道）の整備なども計画されている。この公園が市民の手で造られ「進化した続ける公園」であるよう支援をしていきたい。

### ■ 佐藤 和好（さとう・かずよし）

寒河江市 花・緑・せせらぎ推進課 主査。

寒河江市は平成9年に企画調整課内に「花・緑・せせらぎ推進室」を設置しグラウンドワークの手法による地域づくりに着手。全国都市緑化フェア終了後の平成14年10月に都市計画課にあった公園維持管理業務を統合、「室」を廃止し「花・緑・せせらぎ推進課」に改組した。以来、グラウンドワーク関連業務と花咲かフェア事務局の両部門を担当。

〒991-8601 寒河江市中央1丁目9番45号

TEL 0237-86-2111